# 平成30年度日本太陽エネルギー学会・ 日本風力エネルギー学会 合同研究発表会開催報告

盧 炫佑\*

#### 1. はじめに

島根県松江市は島根県の東部(出雲地方)に位置しており、県庁所在地である。松江城の天守閣は国宝に指定されており、小泉八雲が恋した武家屋敷が綺麗な街並みであった。そんな松江市において、2018年度の日本太陽エネルギー学会・日本風力エネルギー学会合同研究発表会は開催された。



図1 松江城



図2 小泉八雲旧居(武家屋敷)

# 2. 合同研究発表会の概要

合同研究発表会は、2018年11月8日~9日の2日間、島根県松江市の「くにびきメッセ」を会場に開催された。前日の11月7日にはプレイベントとして、松江バイオマス発電(株)、雲南市役所の見学会を開催した。(見学会の詳細については別途記事を参照ください)

今年度の合同研究発表会は、98件の通常発表と 16件のポスター発表があった。その内訳は以下の 通りである。分野分類については近年の投稿動向等 を踏まえて調整を図っている。発表分野ごとの発表 数はほぼ例年通りであった。

参加者数は、当日参加者を含め 207 名であった. プレイベントの見学会には 33 名、懇親会には 75 名、 それぞれ参加があった.

研究発表会運営委員会の委員は以下の通りである. (順不同,敬称略)



図3 開催地である松江市

<sup>\*</sup>研究発表会運営委員会委員長、OM ソーラー(株)

委員長 盧 炫佑 OMソーラー

委 員 石井徹之 電力中央研究所

委 員 石倉規雄 米子工業高等専門学校

委 員 宇都宮健志 日本気象協会

委員 太田 勇 ミサワホーム総合研究所

委員 加藤和彦産業技術総合研究所委員 佐々木剛矢崎エナジーシステム

委員 高野章弘F-WAVE委員 田口幹朗パナソニック委員 野村裕宗昭和シェル石油

表1 発表分野と発表数

| 1. 気象・地球環境      | 13 |
|-----------------|----|
| 2. 太陽熱利用        | 13 |
| 3. 太陽電池セル・モジュール | 8  |
| 4. 太陽光発電システム    | 36 |
| 5. 風力・水力        | 2  |
| 6. 建築           | 28 |
| 7. 材料・素子        | 0  |
| 8. 光化学・電気化学     | 1  |
| 9. 生物・バイオマス     | 8  |
| 10. 応用利用        | 5  |
| 11. 理念・教育       | 1  |



図4 合同研究発表会会場



図5 ポスター発表の様子

委 員 藤澤 徹 神奈川工科大学

事務局 池田祐一 日本太陽エネルギー学会

委員をはじめとする関係者,広告掲載企業各位のご支援とご協力に感謝の意を表します.

発表はそれぞれ持ち時間13分, 質疑4分で行われ, いずれの会場も活発な議論が交わされた.









図6 通常発表会の様子

# 3. 特別講演

特別講演は、11月8日15時より、くにびきメッセ多目的ホールで開催された。

初めに、日本太陽エネルギー学会・須永修通会長より、開催挨拶がなされた。続いて、松江市長の松浦正敬様の代理として副市長の能海広明様よりご挨拶を頂いた。

特別講演 I では、韓国の成均館大学(Sungkyunkwan University)教授の宋斗三(Doosam Song)様より「韓国における温室効果ガス削減の取組 – 再生可能エネルギー3020 – 」と題した講演を頂いた。COP21のパリ協定の地球温暖化抑制目標を達成するため、各国で頑張っている様子を知ることができた。続いて、市民講演 I として認定 NPO 法人自然再生センター理事長の熊谷昌彦様より、「ソーシャルデザインをめざす [認定 NPO 法人自然再生センター] の活動」と題した講演を頂き、市民講演 II として、荒神谷博物館学芸顧問の平野芳英様より「くにびきとはなに?〜出雲だけの神話が語る世界〜」と題した講演を頂いた。自然(生態系)を守ることの難しさと地道な活動に感銘を受け、また出雲の神話で日本と韓国がとても近い国であることを改めて実感した。



図7 須永会長挨拶



図8 特別講演: 宋会長によるご講演



図9 市民講演 I:熊谷理事長によるご講演



図10 市民講演Ⅱ:平野学芸顧問によるご講演

### 4. 企業展示

受付ブース前では、企業による展示コーナーを設け、会員との情報交換の場とした、出展企業は株式会社ミサワホーム総合研究所、一般財団法人ベターリビング、旭化成建材株式会社、株式会社戸上電機製作所の4社であった、(順不同、敬称略)

会員との具体的商談にもつながっていたようで, この場を借りてお礼申し上げたい。来年以降も,学 会と産業界の相互活用につながるような企業展示の 在り方について模索したいと考えている.



図11 企業展示の様子

#### 5. 懇親会

懇親会は、特別講演に引き続き、場所を移してく にびきメッセ内のレストランにて開催された. 石倉 研究発表会実行委員長の司会のもと、須永会長(日 本太陽エネルギー学会). 宋会長(韓国太陽エネル ギー学会)の冒頭挨拶と、宇田川名誉理事(元日本 太陽エネルギー学会会長)によるご発声で乾杯と なった. しばらくの歓談中, 島根県伝統芸の安来節 で懇親会場が大いに盛り上がった。続いてしばらく の歓談後、太和田名誉会長(前日本太陽エネルギー 学会会長) による中締めが行われた. その後, 盧(筆 者、運営委員長)より大会への参加と積極的な支援 に対して感謝を申し上げるとともに来年度開催予定 地 (青森市) を発表し、来年度実行委員長の伊高健 治教授(弘前大学)から青森の魅力を紹介していた だいた。最後に長年に渡って本学会の事務局を担っ て来られた川越事務局長と佐藤様からお別れの言葉 をいただき、名残惜しい懇親会が終了した.



図12 懇親会の様子



図13 懇親会の様子(安来節・どじょうすくい踊り)

#### 6. おわりに

今年も質の高い発表と討議が行われただけでなく,特別講演や市民講演など,内容の充実した大会を終えることができた.出席頂いた会員の皆様,研究発表運営委員会の皆様,松江の関係各位にはこの場を借りて改めてお礼申し上げます.

本学会では一般会員,企業会員の数を増やしたり, 研究発表会を盛り上げるための検討を行っており. 今年度は大会出席者にアンケートも実施した. 学会 を通して情報発信することが大学や研究機関の存在 価値を高めることにつなげる仕掛けが必要だと考え ている. 同時に、企業に対しては「情報発信する者 に情報は集まる」という意識醸成を図らねばならな いと認識している. 研究論文の発表時間,発表方法, セッションの区分等についてはまだまだ検討の余地 があるだろうし、大会開催場所、日程、海外からの 招待講演など過去の事例に捉われない案もあるよう に思われる. また、各種イベントは市民との貴重な 交流の場であるはずなので、一般の方々にいかに周 知し、太陽エネルギーの重要性を知っていただくか についても、研究内容を深めるのと同様に重要な テーマとして運営委員会において考えてゆきたい.